

委員会先進地視察報告書総括表

1 視 察 日	令和 6 年 10 月 15 日 ~ 10 月 17 日			
2 視察地・項目	① 熊本 県 美里 市・町			
	② 宮崎 県 延岡 市・町			
	③ 大分 県 別府 市・町			
	④ 県 市・町			
3 参 加 者	1. 松尾 祥秀	委員長	7. 永尾 高宣	委員
	2. 久保 和幸	委員	8. 村上 秀明	委員
	3. 中崎 秀紀	委員	9. 金原 剛蔵	河川公園課長
	4. 水上 享	委員	10. 友野 和成	書記
	5. 小林 史政	委員	11.	
	6. 田中 博文	委員	12.	
4 視 察 経 費	388,330 円 ※ (10) 人分			

委員会先進地視察報告書

報告者 中崎秀紀

1 視 察 日	令和 6 年 10 月 15 日
2 視 察 地	熊本 県 下益城郡美里町
3 参 加 者	経済建設 常任委員会
	1. 松尾祥秀 委員長 6. 永尾高宣 委員
	2. 久保和幸 副委員長 7. 村上秀明 委員
	3. 水上享 委員 8. 中崎秀紀 委員
	4. 小林史政 委員 9. 金原剛蔵 河川公園課長
	5. 田中博文 委員 10. 友野和成 書記
4 視 察 項 目	フォレストアドベンチャー美里の取組について
5 視察先選 定 理由・目 的	本市は令和7年6月整備完了予定で自然共生型アウトドア施設整備・管理運営事業(DBO)を進めている。特定されたフォレストアドベンチャーをすでに運営しジップラインも整備している美里町で本事業について調査・研究するために選定した。
	○美里町の世帯数・人口(令和5年12月末) 世帯数4,119件、総数8,868人(男4,221人、女4,647人) ○美里町について 美里町は、平成16年11月1日に旧砥用町と旧中央町の2町が合併し誕生しました。熊本県のほぼ中央に位置する本町は、熊本都市圏から約40分圏にあります。豊かな自然環境に恵まれ、観光名所として「日本一の石段」や国の重要文化財「霊台橋」をはじめとする多くの石橋等、先人が築き、遺してくれた多くの宝があります。また、近年では、緑川ダム湖周辺の森林をそのまま活かして造られたフォレストアドベンチャー・美里や豊かに湧く良質の天然温泉が楽しめる道の駅美里「佐俣の湯」も人気を博しており、多くの交流人口で賑わっています。しかし、本町を取り巻く環境は、人口の急激な減少、超少子高齢化社会の到来等により、非常に厳しい状況にあります。このような状況下である今だからこそ、町民一体となって逆境を乗り越え、未来永劫に続く「小さくてもキラリと光る美里町」の礎を築く必要があると考えます。田舎だからこそ安心できる。田舎にしかないモノがある。しかしながら熊本都市圏も通勤圏である…。一人でも多くの方に美里町の魅力を知って頂きたいと強く願います。(美里町HPより転記) 視察質問項目 ① 整備の経緯 ゆたかな自然環境に恵まれ観光名所もあるが、観光の強化や若者に来てもらう、定住してもらう等の地域課題があり、自然を生かした体験型観光を検討する中で緑川ダム湖周辺の森林をそのまま活かすフォレストアドベンチャーを検討することとなる 平成25年10月導入検討開始 平成26年1月候補地選定 平成26年2月地権者説明・国交省緑川ダム管理所へ構想打診・全協提案 平成26年3月道の駅美里「佐俣の湯」オープン・設置体験 平成26年5月全協提案 平成26年6月用地取得費予算化・7月用地交渉 平成26年9月設計費予算化 平成26年10月設計業務委託契約 平成27年2月整備業務委託契約・3月末竣工 平成27年5月落成式・グランドオープン 平成28年4月ジップトリップコース整備委託契約・5月運用開始 平成29年3月トイレ新築 平成30年6月第1駐車場舗装工事 令和2年4月指定管理者制度民間委託(株式会社フォレストアドベンチャー)

6 視 察 内
容

② 整備事業の概要

事業総面積 合計約22,920㎡

・アドベンチャーコース 約10,191㎡

・ジップトリップコース 約5,431㎡

・受付及び管理地 約7,298㎡

整備費用(概算)合計139,100,000円

・土地買収11,200,000円

・立木等損失補償費9,310,000円

・トイレ整備費23,000,000円

・施設整備費89,500,000円

・林地整備費1,101,000円

・その他4,989,000円(設計費・材料費)

参考

キャノピーコース(こども向け)約30,000,000円

改修工事約8,000,000円

③ 整備において重視した事

他の観光施設キャンプ場・道の駅・観光名所など関連する施設との相乗効果で家族みんなで楽しめるようにする。

④ 運営方法・利用実績

当初直営であったが運営上のノウハウなど総合的に検討した結果指定管理者制度とした。

一年を通して利用されているが、8月の夏休みが最も利用者が多く次に5月、3月が多い、梅雨時期や台風時期は、アクセスする道路でがけ崩れがあったり、ジップラインは風の影響で使用できない場合がある。また、雷時は雷雲がなくなるまで利用中止となる。

利用者・売上推移

平成27年度8,855人・25,444,500円

平成28年度7,451人・23,016,500円(熊本地震)

平成29年度15,005人・53,723,661円(ロングジップライン整備)

平成30年度14,651人・54,574,351円

令和1年度13,943人・52,240,046円

令和2年度8,865人・37,647,142円(コロナ)

⑤ 課題・展望

利用者をどのようにして増やしていくかを課題として捉えている。

○家族みんなが楽しめるように、子供向けコースであるキャノピーコースを整備した。また、小中学生の卒業記念として減免を実施している。

○テレビ・ラジオ・SNSでのイベント告知や熊本県内でラッピングバスを走らせたりして広告宣伝に力を入れている。

○サイクリングやボート、キャンプ施設等のアウトドア施設との相乗効果が出るように工夫をしている。

今後の施設維持、老朽化対策も課題である

○利益還元金を基金へ積み上げている。年間に600万以上の還元金がありランニングやメンテナンス費用を上回る金額となっていて現時点では問題ないが還元金は売り上げに比例するので利用者を増やすことがこの点においても重要となってくる。

⑥ その他

○財源については、全額合併特例債を活用している。

○施設の安全面については、毎日安全点検を実施している。事故が起こらないような安全対策がなされている。事故への対応は、フォレストアドベンチャーが行う。

	⑦ 実際にジップラインを体験する。 ジップトリップコースはフォレストアドベンチャー美里の目玉となっていて、緑川ダムを越え往復するロングジップスライドです。長さは往路410m復路510mと1本のジップスライドの長さでは日本一の長さを誇ります。正面には棚田もあり景色は最高で迫力のある体験となりました。 ○体験までの流れ 1、ルールと注意事項の確認 注意事項を説明した参加誓約書を読み署名をする。樹上の高いところに利用者だけで登るので自己責任で行動する、ルールを守ることを求められます。 2、準備 専用のハーネスの着用を行います。ハーネスの着脱はスタッフが行います。ハーネスを付けるとトイレに行けないので事前に済ませる必要があります。 3、安全講習 ハーネスを着用後に安全講習を受けます。カラビナやプーリーの使用方法を指導してもらう。カラビナは特殊で2つのカラビナが連動している。必ず一つはワイヤーにかかっていて落下しない仕組みになっている。大村市では更に利用しやすい装備になる予定とのこと。安全講習のビデオを見た後に、インストラクターの指導の下で安全講習用の低くて小さいプリーフィングコースで本番と同じように体験をした。 4、実際に利用 視察参加者全員が参加でき、大変すばらしい体験をした。実際に参加することで安全性が高いことと安全のためのサポートがきめ細かいことが分かった。スタート地点に上がることが出来たら、だれでも楽しめることが分かった。 ただ、上るのには一定の体力が必要とされることが、安全講習を受けてルールを守ることの重要性が分かった。
7 委員会所見	本市でもフォレストアドベンチャーの施設がDBOで整備されることが決定している。専門的な技術と知識、スタッフの育成、メンテナンス、スタッフの専門性を考えると本市が採用したDBOでの整備が妥当であると感じた。計画にあたり安全面や利用料について疑問の声もあったが、実際に体験してみると安全性や熟練スタッフによるサポートが充実していて安全面、利用料についても納得できるものであった。一方で自然の樹を利用することから毎日の安全点検や定期的なメンテナンスが必要で、その費用や体制をしっかりと確保することが重要であること、市民に利用してもらうための減免などの市民優遇の必要性、多くの方が利用できる施設の工夫などハード・ソフト面の検討も必要なことが分かった。 施設整備にあたってはDBOであることから、コミュニケーションを高めてサービスの質向上と本市観光施策との連携による相乗効果を求めることが必要となる。また、市民に親しまれることが重要であり、市民が利用しやすいように利用料の市民割などのような施策も検討していく必要があると感じた。 今回視察した美里も熊本市内から40分かかったが、多くのアドベンチャー施設が山間部にありアクセスに時間がかかるが、野岳はわずか20分程度と圧倒的なアクセスの優位性がある、多くの方に知って頂き利用してもらうよう宣伝するとともに周辺地域・大村市内の活性につながることを期待して本視察の報告とする。

経済建設委員会先進地視察報告書

報告者 小林 史政

1 視察日	令和 6 年 10 月 16 日		
2 視察地	宮崎 県 延岡 市		
3 参加者	1 松尾 祥秀 委員長	5 水上 享 委員	9 金原 剛蔵 河川公園課長
	2 久保 和幸 副委員長	6 田中 博文 委員	10 友野 和成 事務局書記
	3 村上 秀明 委員	7 中崎 秀紀 委員	
	4 永尾 高宣 委員	8 小林 史政 委員	
4 視察項目	旅っチャの取組について		
5 視察先 選定理由・目的	令和 6 年 6 月議会における村崎議員の市政一般質問において、本事業の先進地事例の紹介があった。本市も2つの I.C を保有している背景から、高速道路の P.A や S.A にガチャガチャを利用した特別優待券を手に入れることができ、その効果を交流人口増に繋げるユニークな内容を詳しく知るべく、本視察を行うこととなった。		
6 視察内容	1、「のべおかガチャくじ」誘客事業概要 …NEXCO 西日本との連携により、サービスエリアに専用ガチャ販売機を設置し、延岡市で利用可能な地域通過「のべおか coin」(のべおか coin ポイント)の購入価格以上のポイントが入手できるキャンペーンを実施。 延岡市への来訪のきっかけを作り、市内の観光需要の早期回復と市内経済の再生を図る。 事業効果として ①SA利用者 → ②SA設置のガチャに挑戦 → ③地域通貨獲得(ポイント) → ④延岡市に立ち寄り、市内店舗で買い物 県外高速道路利用者の本市の誘客及び市内経済の活性化に寄与 2、「のべおか旅っチャ キャンペーン」実施概要 ● 実施期間:R4年 9 月 23 日 ～ R5年1月31日 R5年8月19日 ～ R6年1月31日 ※完売時点で終了 ● 実施場所:R4年 別府湾SA、霧島SA R5年 別府湾SA、広川SA		

● 設置台数:4台(各SAに2台ずつ) ガチャ玉:2,000 個(各SAに 1,000 台ずつ)

● 販売価格等 ・ガチャ一回につき500円 ・一人 2 回の購入制限

・ポイント利用期限:翌年 2 月末まで

3、ポイント付与額

R 4 年 1000 円分・・・1200 個 (6 割)

3000 円分・・・600 個 (3 割)

5000 円分・・・200 個 (1 割) 総付与額 400 万円

R 5 年 1000 円分・・・1400 個 (7 割)

3000 円分・・・400 個 (2 割)

5000 円分・・・200 個 (1 割) 総付与額 360 万円

4、販売実績

R 4 年度 ・別府湾 SA 1,600 個 霧島 SA 400 個

R 5 年度 ・別府湾 SA 1,600 個 広川 SA 400 個

5、ポイント利用実績

R 4 年度・・・約 345 万円分利用 (約 55 万円失効) 利用率:86%

R 5 年度・・・約 334 万円分利用 (約 26 万円失効) 利用率:93%

6、事業実績について

「のべおかガチャくじ」誘客事業実績③（R4年度）

地域別ガチャくじ購入及びポイント利用実績

購入者居住地域		購入者(QR読み込み者)				ポイント利用			
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
九州	宮崎県 延岡市内	646	62.30%			587	64.36%		
	延岡市外	113	10.90%			89	9.76%		
	大分県	144	13.89%			122	13.38%		
	福岡県	87	8.39%			74	8.11%		
	熊本県	8	0.77%	1,013	97.69%	5	0.55%	892	97.81%
	長崎県	6	0.58%			6	0.66%		
	鹿児島県	4	0.39%			4	0.44%		
	佐賀県	4	0.39%			4	0.44%		
	沖縄県	1	0.10%			1	0.11%		
四国	愛媛県	1	0.10%	1	0.10%	1	0.11%	1	0.11%
中国	山口県	1	0.10%			1	0.11%		
	広島県	1	0.10%	3	0.29%	1	0.11%	3	0.33%
	島根県	1	0.10%			1	0.11%		
近畿	大阪府	3	0.29%	3	0.29%	2	0.22%	2	0.22%
中部	三重県	3	0.29%			3	0.33%		
	愛知県	1	0.10%	5	0.48%	1	0.11%	5	0.55%
	長野県	1	0.10%			1	0.11%		
関東	神奈川県	4	0.39%			3	0.33%		
	東京都	4	0.39%	10	0.96%	3	0.33%	7	0.77%
	茨城県	2	0.19%			1	0.11%		
東北	青森県	1	0.10%	1	0.10%	1	0.11%	1	0.11%
その他	不明	1	0.10%	1	0.10%	1	0.11%	1	0.11%

・来訪動機の醸成
市外居住者325人が来訪し、ポイントを利用。

一方で…
半数以上(60%以上)の購入者・利用者は延岡市民である。

6

「のべおかガチャくじ」誘客事業実績④（R5年度）

地域別ガチャくじ購入及びポイント利用実績

購入者居住地域		購入者(QR読み込み)				ポイント利用			
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
九州	宮崎県 延岡市内	535	51.29%			478	52.70%		
	延岡市外	95	9.11%			78	8.60%		
	大分県	224	21.48%			200	22.05%		
	福岡県	103	9.88%			84	9.26%		
	熊本県	22	2.11%	1,001	95.97%	16	1.76%	875	96.47%
	長崎県	8	0.77%			7	0.77%		
	鹿児島県	10	0.96%			9	0.99%		
	佐賀県	3	0.29%			2	0.22%		
	沖縄県	1	0.10%			1	0.11%		
四国	愛媛県	2	0.19%	2	0.19%	2	0.22%	2	0.22%
	山口県	4	0.38%			2	0.22%		
中国	広島県	3	0.29%	8	0.77%	2	0.22%	4	0.44%
	島根県	1	0.10%			0	0.00%		
近畿	大阪府	7	0.67%	10	0.96%	5	125.00%	8	0.88%
	兵庫県	3	0.29%			3	0.33%		
中部	岐阜	2	0.19%	2	0.19%	1	0.11%	1	0.11%
関東	群馬	1	0.10%			0	0.00%		
	埼玉	1	0.10%			1	0.11%		
	神奈川県	3	0.29%	16	1.53%	3	0.33%	13	1.43%
	東京都	8	0.77%			6	0.66%		
	千葉県	3	0.29%			3	0.33%		
その他	不明	4	0.38%	4	0.38%	4	0.44%	4	0.44%

・来訪動機の醸成

市外居住者429人が来訪し、
ポイントを利用。

一方で…

半数以上(50%以上)の購入
者・利用者は延岡市民である。

7、今後の課題について

●□課題

	高速道路を利用する市外居住者が延岡市を来訪するきっかけになり、コロナ禍で疲弊した市内経済の回復に一定の効果をもたらすと共に、のべおか coin アプリの新規登録者増加にも寄与した。 一方で、利用者の半数以上が延岡市民であり、本来の目的である市外からの誘客及び外貨獲得の効果としては乏しいものとなった。 ↓ <u>○今後の対策</u> ・市民居住者のみにポイントを付与するシステム・運用の検討 ・設置サービスエリアの再検討（より遠方の S A への設置した場合の効果等） ・市内の広報、周知の縮小、県外への広報、周知を強化
7 委員会所見	今回、宮崎県延岡市の誘客事業として行われたガチャガチャを利用した「のべおかガチャくじ」について視察・研修を行なった。 高速道路のインターチェンジを 2 つ有し、地域コインの「ゆでび」を導入している大村市としては大いに参考となる事業ではないかと感じた。延岡市としてはコロナ禍により大幅に減少した来訪者に対して、市の PR と地域コインを活用する経済対策として期待を込めて事業を始めたものと推察する。効果としては、完売するほどの注目度はあったものの市外居住者が利用するというよりも、市内利用者がポイントのメリットを求めて購入した部分は否めないとされている。大村市としても今後は地域通貨の「ゆでび」をさらに活用する形での地域経済の活性化と大村市の PR に力を入れていく必要がある。

委員会先進地視察報告書

報告者 久保 和幸

1 視 察 日	令和 6 年 1 0 月 1 7 日		
2 視 察 地	大分県別府市		
3 参 加 者	経済建設委員会		
	1. 松尾 祥秀 委員長	7. 中崎 秀紀 委員	
	2. 久保 和幸 副委員長	8. 小林 史政 委員	
	3. 村上 秀明 委員	9. 金原 剛蔵 課長	
	4. 永尾 高宣 委員	10. 友野 和成 書記	
	5. 水上 享 委員	11.	
	6. 田中 博文 委員	12.	
4 視 察 項 目	Park-PFI の導入について		
5 視察先選定理由・目的	公園整備における PFI 方式を導入した先進地事例を視察するもの		
6 視 察 内 容	○大分県別府市 人口 115,008 人 面積 125.34 km² 財政規模（歳出総額） 676.6 億円 ※日本一の温泉源を有する観光都市である。 1 Park-PFI を導入された経緯 自由に利用できる公共施設として、また人々のレクリエーション空間として利用できるようとの考えから条例改正し、これまで許可制であったものを自由にできるようにした。公園での火気使用は禁止されていたが、17 か所で花火もできるしバーベキューも可能、危険行為は禁止だがスケボー場や3 オン3 のコートを作った。地域の魅力向上や地域資源の活用、観光振興、地域活性化の場を創出、提供するためにも民間ノウハウを活用するため Park-PFI を導入した。 2 Park-PFI で整備された公園ごとの公募の状況や事業内容、運営状況 (1) 別府公園東駐車場便益施設等整備運営事業 サウンディング調査を行い、市負担無しでの整備のため条件等を複数業者と協議した結果、公募は2 者、選定委員会においてプレゼンの内容を検討しスターバックスコーピーに決定した。民間事業者が整備したため市の支出は無い、機械の保守料、警備員の人件費など 550 万円程度の経費が掛かっているが、駐車料金 1,700 万円で約 1,120 万円の収入となる。 公園の利用者が年間 24.5 万人増加したが、これはスターバックスコーピーの利用者だけではなく公園としてのイメージアップが図られ、利用しやすい雰囲気になったことによるものと思われる。		

(2) 鉄輪地獄地帯公園整備運営事業

鉄輪地獄地帯公園の未整備地区へアウトドア体験を楽しめる複合型体験施設を整備するもので公園全体の周遊ルートは公共事業で整備、未利用地の整備（駐車場、トイレ含む。）には一部公共事業の約 8 割程度を市が負担金として支出した。上物を民間業者が整備し「GRANXIA（グランシア）別府鉄輪」をオープン、風光明媚で利用者は多く経営は順調とのこと。

(3) 春木川公園整備運営事業（R6.12 供用開始）

都市計画決定後 50 年を経過していたが未整備の状況であった。市内の公共事業マネジメント会議においてサウンディング調査の結果を踏まえ、関係部局で公共事業か Park-PFI で整備するか検討した結果、都市公園の整備と地域課題の解決、新たな価値創造、戦略的マネジメントの実現のため民間ノウハウを活用することとし Park-PFI で整備することとなった。まず立体都市公園へ都市計画決定を変更、1 階部分は特別目的会社（市内事業者が出資した会社）と市、市中金融機関が協定を結び借主を探し、ダイレックスへ賃貸する。2 階部分は人口芝グラウンド及びクラブハウス、駐車場として利用する。既に整備済みの東エリアは便益施設等が整備されている。

※立体都市公園制度：適正かつ合理的な土地利用を図る上で必要がある場合には、都市公園の下部空間に都市公園法の制限が及ばないことを可能とし、都市公園の区域を立体的に定めることができる制度

(4) 上人ヶ浜公園整備運営事業（整備中）

本公園は市有の海浜砂湯施設を含む公園整備を行うもので Park-PFI 方式で砂湯施設のリニューアルと公園のアップグレードを実施するもの。

3 今後の展望・課題等（整備中）

- ・公共事業でやるのか、Park-PFI 方式でやるのかの十分な検討
- ・Park-PFI 方式においては、事業者が決定しないと地元、市民への説明ができない。
- ・利益をあげる民間施設と公用地・公共スペースの確保やリスク分担は相手方と協定に示す。
- ・予算が伴わないことから議会への説明のタイミングが難しい。

7 委員会所見	今後の公園整備においては、市民が求めているものや利便性の確保が必要となってくることから、民間の経験やアイデアというノウハウを活用できる Park-PFI 方式での公園整備は、市の負担も軽減されることから今後有効な手法であると感じた。 ただし、別府市は観光客が多く、春木川公園を除く公園は観光客の利用が多いものと思われ、採算面からも民間事業者にメリットがあることから PFI 方式が成り立っているものと考えられる。 そういう面では本市での実施が可能かは十分検討しなければならない。また、PFI 方式で整備した場合、事業者が撤退する懸念もあり、そのあとの運営をどうするかとの問題もある。 公園整備に限らず公共施設の整備には、民間のノウハウや活力を活用するべきと考えるが、その手法は PFI 方式以外にも野岳湖公園整備に取り入れた DBO 方式など多数あることから本市にとって最も有効な方式を検討し採用すべきと感じた。
---------	--